

## 岩手県宮古市

【テーマ】 持続可能なインフラマネジメントの実現 / スモールコンセッションの推進 / グリーン社会の実現 / その他（ ）

【対象施設】 道路 橋梁 / 公園 / 上下水道 / 河川 / 港湾 / 遊休施設 / その他（ ）

【事業方式】 コンセッション / その他のPFI 包括的民間委託 その他（ ）

## フェーズフリーな包括的道路維持管理手法の検討

市町村合併により管理延長が大幅に増えた当市の道路施設は老朽化が進み、さらに近年は激甚化する豪雨災害での対応も頻発化している。行財政面・人員面でも多くの課題を抱える中、官民連携やDX技術の活用により、災害時を含めた平常時から様々な備えをするフェーズフリーかつ持続可能なインフラマネジメント手法を検討する。

## ①解決したい課題

## 宮古市の概況

- ・東に太平洋を望み、西は北上山地を仰ぐ。
- ・総面積の約92%が森林で、東西に広がる地勢から、沿岸部は積雪が少なく、比較的温暖な気候である一方、山間部は標高が高く、冬は積雪が多い。
- ・豊かな自然環境は水産業や林業、観光資源として経済を支えている。

■人口…44,562人(R8.1.1現在)

■面積…1,259km<sup>2</sup>→東西約64km,南北約50km  
(全国11番目の広さ)

■高度…0～1,917m

■管理道路延長…約810km

■管理橋梁数…485橋



## インフラ維持の需要が急増（老朽化・多様化する住民要望・災害の頻発化）

- 整備から50年以上が経過した橋梁が全体の4割。今後10年ごとに1割ずつ増加予定。
- 市民の高齢化に伴い、沿道の草刈りや側溝清掃などの要望・依頼が増加している。
- 東日本大震災（平成23年）をはじめ、台風10号（平成28年）、台風19号（令和元年）などの災害による被災を受けており、近年は豪雨等により、毎年のように災害対応が発生している。

## インフラサービスの低下リスク（体制の限界・従来発注方式の限界）

- 要望や通報の件数は年間600件に上り、現地確認、調査票作成、対応指示に係るデータ処理などの事務が煩雑化している。
- 道路清掃や補修作業は直営の道路維持作業員が対応しているが、採用数が追いつかず、体制は縮小傾向にある。
- 直営対応が困難な箇所は地元業者に発注しているが、軽微な補修でも通常工事と同様の手続きが必要となり、図面作成や出来形・品質管理に手間を要し、事務負担が大きい。
- 災害時対応については、予め業者と契約締結していないため、初動期における応急復旧対応が遅れる傾向にある。

## ②課題解決の方向性等

Step1  
DX技術の活用

- ・デジタル技術による情報管理の一元化
- ・作業効率化と生産性向上の実現

Step2  
発注スキーム検討

- ・インフラ分野の包括化と発注方式の検討
- ・包括的民間委託の導入検討

Step3  
フェーズフリーな管理体制

- ・官民一体となった管理体制
- ・災害時にも対応した管理体制の構築

## ③課題解決のイメージ・効果

- 【自治体】 将来的財政負担の軽減。職員の業務対応の効率化と時間外勤務の削減。
- 【地域企業】 安定的受注。企業間での人材や資器材の融通。作業時間の短縮や人員配置の最適化。
- 【地域住民】 早期復旧体制によるインフラサービス向上。地域と連携したインフラの維持・管理体制づくり。

## その他

令和8年度は道路を中心とした包括的民間委託の検討を進めるが、災害対応までを含めたフェーズフリーを最終目標とするため、平常時と災害時それぞれの特性、並びに異なるインフラ分野の包括化を念頭に置く。